

## 平成 29 年度 社会福祉法人よこすか黎明会 事業報告書

昭和 26 年 3 月 29 日施行の「社会福祉事業法」は、平成 12 年「社会福祉法」への改称等、その都度変わりゆく社会構造に対応し改正を重ねてきた。平成 25 年には、「規制改革実施計画」により、財務諸表の公表。同 8 月の非課税扱いに相応しい地域貢献。平成 26 年 6 月には、介護・保育事業等における経営管理の強化とイコールフットイングの確立。民間事業者との競合関係を検証している。さらに平成 27 年 1 月「自由民主党改革プロジェクトチーム」による社会福祉法人改革に関する提言と、平成 27 年 4 月の「社会保障審議会福祉部会」での審議の結果、①法人運営におけるガバナンスの強化、②透明性の確保、③内部留保の明確化と再投下等を網羅した「社会福祉法等の一部を改正する法律案」を閣議決定。後、衆、参両院の審議を経同法を平成 28 年 3 月 31 日制定。翌 4 月 1 日一部施行。平成 29 年 4 月 1 日全部施行に至った。よって平成 28 年度当初より、神奈川県及び関係団体主催の説明会等に参加、制度改革の内容理解に努め、①定款変更申請書の提出と認可、②評議員選任・解任委員会の設置と委員の選任、③評議員、理事・監事等役員の再編成。④役員報酬規程及び役員名簿の公開、定款細則(役員身分確認他)の改正。⑤社会福祉充実計画の樹立等々膨大な事務執行を完了し一年を経過した。

一方、平成 28 年 7 月 26 日「相模原津久井やまゆり園」殺傷事件を契機に、黒岩県知事を筆頭に「共に生きる社会の実現」、「利用者意向の尊重」、障害者支援施設の「適正規模・配置」と「拠点施設の機能強化」の指針が再確認され、この 3 月再建着工の途に就いたところである。以下役職員が一丸となって取り組んだ 365 日の事業結果を報告する。

### 1. 実施事業の種類

No	事業所名	事業内容	No	事業所名	事業内容
1	横須賀ホーム	障害者支援施設 入所支援事業 定員 40 名 (現員 40 名)	4	横須賀ホーム	指定日中一時支援事業 (実績 567 回)
2	横須賀ホーム	障害者支援施設 生活介護事業 定員 50 名 (現員 49 名)	5	はやし生活ホーム	指定共同生活援助事業 定員 4 名 (現員 4 名)
3	横須賀ホーム	指定短期入所事業 定員 4 名 (実績 1242 日)	6	横須賀ホーム	特定相談事業 (実績 26 名)

### 2. 役員会の開催

期 日	議 題 等		場 所	出 席 者
05/24	監事監査		横須賀ホーム会議室	監事 2 名 理事長、副園長、事務員
05/31	第 43 回理事会	平成 28 年度事業、決算報告、監事監査結果報告他	横須賀ホーム会議室	※理事 6 名(書面出席 3 名) 監事 2 名
06/14	第 33 回評議員会	平成 28 年度事業、決算報告、監事監査結果報告、充実計画、役員選任他	横須賀ホーム会議室	評議員 6 名
06/14	第 44 回理事会	理事長選任他	横須賀ホーム会議室	理事 6 名 監事 2 名
11/15	第 45 回理事会、第 34 回評議員会	社会福祉充実計画、諸規程改正、事故報告他、(懇親会中止)	横須賀ホーム会議室	理事 6 名 監事 2 名 評議員 6 名
03/14	第 46 回理事会、	平成 30 年度事業計画、当初予算、県、市監査概況報告他	横須賀ホーム会議室	理事 5 名 監事 2 名

### 3. 事業結果

- ①「支援Ⅰ」ヒヤリハット 219 件。事故 57 件。内県、市報告 14 件。内訳「転倒 4、所在不明 3、骨折 3、誤薬 4」。通院 21 病院 184 名。苦情案件(誤与薬)1 件であったが、入所 延べ 480 名。通所 99 名。短期入所事業 1.3 倍の 1242 日。日中一時支援事業 3.3 倍増の 567 回。但し、入院、死亡は 0 件。前年度蔓延したノロウイルス、インフルエンザを完全防止。利用者生命の保護と繁栄に務めた。
- ②「支援Ⅱ」家族、後見人等と年 2 回のケア・プラン、モニタリング面談を実施。専任相談員による「サービス等利用計画書」20 名、「モニタリング」6 名分を作成、届出た。
- ③「日中活動」「製菓・製パン(朝食≒2000 食生産)」、「指編マット、タオル作り」、「椎茸栽培」、「育苗」、「ソレイユの丘清掃作業」等により 1,288 千円余の売上げを得、利用者に報奨金 ≒702 円/月(総計 347 千円)を支給した。亦、椎茸栽培は原木栽培にプラス「菌床栽培」の試行を開始した。
- ④「行事・余暇」(1) 6/9 三浦市潮風アリーナにて「スポ・レク」(利用者他総勢 112 名)。(2) 8/9 「夏祭り」(利用者他「創生舎」の協賛、総勢 144 名)。(3) 10/5～6「伊東小涌園宿泊旅行」(利用者他 総勢 88 名)。(4) 2/17 作業棟、園庭等にて「椎茸祭り」(利用者他総勢 123 名参加)を実施。他小グループ外出(水族館、動物公園、ソレイユ公園他)8 回実施。職員による個別ガイドヘルプ外出(食事・買い物 40、温泉 8、カラオケ 2、花火、コンサート、墓参、サーカス) 計 55 回を実施。園生活に潤いをもたせた。
- ⑤「地域交流」11/3 三浦ふれあいの村フェスタ販売。11/8～11 県知的障害福祉協会横須賀・三浦地区会行事「ふれあい作品展」(於・ショッパース)。11/12「ふれあい広場」(於・市福祉会館)に出店。利用者作品等 87 千円余を売上げ、地域関係者と交流。「施設は地域の一部である」を実践した。
- ⑥「オンブズ P」横須賀・三浦地区会による本事業は 17 年目となる。年 3 回 利用者 4 名の面談。行事交流等 2 回実施。利用者及び家族との意向等確認した。
- ⑦「苦情、後見」誤与薬に対する苦情 1 件、担当職員等で数回謝罪。他、横須賀・葉山農協との預金取扱い「包括委任契約」の継続。成年後見人選任 18/40 名を再確認した。
- ⑧「備品等整備」電話設備 1,588 千円、自動車ハイエース買換え 2,105 円、園庭倉庫新築 740 千円、門扉改修工事 584 千円、厨房圧力鍋買換え 140 千円、ラウンジチェア買換え 378 千円、空調修理 775 千円、花壇整備 572 千円、屋根鋼板修理 280 千円、消防設備修理 210 千円、給水ポンプ修理 810 千円、総計 8,182 千円を整備した。但し、総収益に対する事業執行率は 88.8%であった。
- ⑨「待遇」①福祉・介護職員処遇改善費 15,717 千円を受給、3 月期末時に(本俸×≒2.44 ヶ月)13,667 千円を完全支給。亦、短期入所事業 1,115 千円を人事考課により全職員に出来高配分した。②国家公務員人事院勧告に準じ、扶養手当、期末手当 4.2 ヶ月を 4.4 ヶ月に改正した。(但し、処遇改善費の配分、支給方式が、県内法人毎で千差万別)。30 年度に支給計算式を確立する予定とした。尚、法人全体の人件費率は 61.5%であった。
- ⑩「研修・表彰」職員の資質向上を目途に、自己研修(手当 1 回 6000 円×4 回)を奨励。自己研修延べ 107 名。出張研修延べ 21 名。総勢 128 名が学習した。亦、精神保健福祉士 1 名、社会福祉主事 2 名、知的障害者援助専門員 2 名、介護職員初任者研修 1 名、がその資格を取得した。  
その他、横須賀市社会福祉協議会会長 10 年表彰として、勤続職員 7 名(男性 5 名、女性 2 名)の申請をした。
- ⑪「人材確保」生活支援員 2 名の退職に対し、生活支援員 3 名(内専門校卒男子 2 名、女子 1 名)を確保した。(但し、入院等による非常勤職員の出入りはその都度補充した)。この 2 年間に高校生計 3 名を採用。内二年目女子 1 名が職場結婚。女子 1 名のみが安定就業中である。
- ⑫「家族会」例会 2 回、総会 1 回、労働奉仕 2 回、及び四大大行事の参加と、モニタリング面談年 2 回で意見交換、交流で信頼関係を深めた。但し、恒例の新年会は中止した。
- ⑬「その他」平成 28 年 12 月より、隣組 20 軒との交流を開始。干支、ホームネットニュース年 4 回の配布を継続した。